

2017年美瑛富士携帯トイレの活動 美瑛富士携帯トイレシステム試行に伴うアンケート 調査結果



1. 美瑛富士携帯トイレシステム試行に伴うアンケート調査結果

(1) 試行体制と検討枠組

美瑛富士携帯トイレ試行導入 役割分担

項目	実施主体
仮設携帯トイレブースの設置(※1)	環境省北海道地方環境事務所
携帯トイレ回収ボックスの購入・設置	山のトイレを考える会
携帯トイレブース及び小屋周辺の点検清掃(※1)	美瑛富士トイレ管理連絡会 (北海道山岳連盟、札幌山岳連盟、日本山岳会北海道支部、道央地区勤労者山岳連盟、道北地区勤労者山岳連盟、白老山岳会、北海道山岳ガイド協会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、山のトイレを考える会)
回収ボックスの維持管理	美瑛町・上富良野町
使用済み携帯トイレの回収処分	美瑛町・上富良野町
アンケート調査(※1)	環境省北海道地方環境事務所
取組の広報	関係機関(※2)・山のトイレを考える会

※1...設置に係る国有林野の使用手続き、調査・点検清掃に係る国有林野への入林手続きについては、自然保護官事務所、森林管理署、美瑛富士トイレ管理連絡会による協定により実施。

※2...環境省北海道地方環境事務所、林野庁上川中部森林管理署、北海道上川総合振興局、美瑛町

(山のトイレを考える会 仲俣事務局長発表資料より作成)

(1) 試行体制と検討枠組

「試行」(テント式)から「本格導入」(常設固定式)を目指す

1. 設置することの必要性

2. 設置することの有効性

(1) 利用の確実性

① 試行における携帯トイレ普及の取組の認知度

② 試行における携帯トイレの持参率

③ 利用者の携帯トイレ使用意思

アンケート調査業務により
検討する部分

(2) 周辺環境の改善効果

3. 常設固定式整備の可能性

4. 維持管理体制構築の可能性

(参考) 利尻富士

○平成19年度までに、携帯トイレブースが
設置され、し尿の散乱が解消。

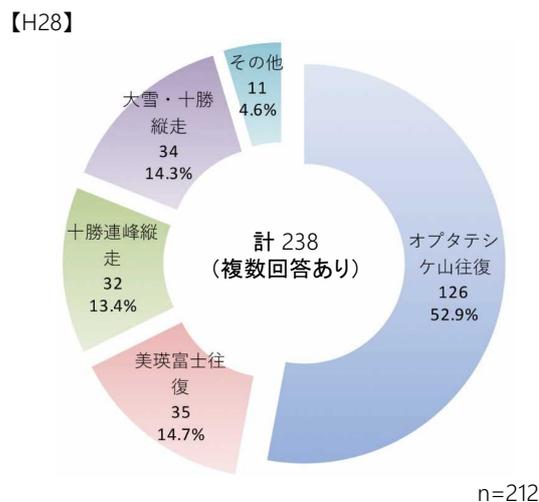
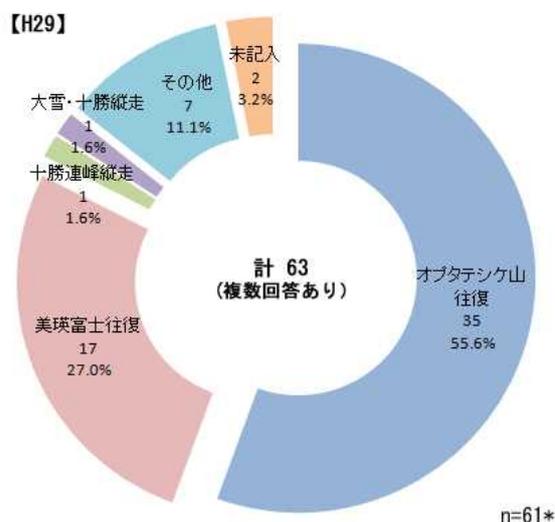
○この時、取組開始から6年、携帯トイレ
の取組の認知度84.3%

(2) 平成29年度登山者アンケート結果

アンケート実施概要

項目／年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
実施場所	美瑛富士登山口	美瑛富士避難小屋	美瑛富士避難小屋
実施日数	4日	14日	14日
実施初日～ 実施最終日	7月19日～ 8月2日	7月15日～ 8月28日	8月26日～ 9月30日
サンプル数	47	212	61
主な回答者属性	往復日帰り登山者	往復日帰り登山者 縦走者	往復日帰り登山者 縦走者(わずか)

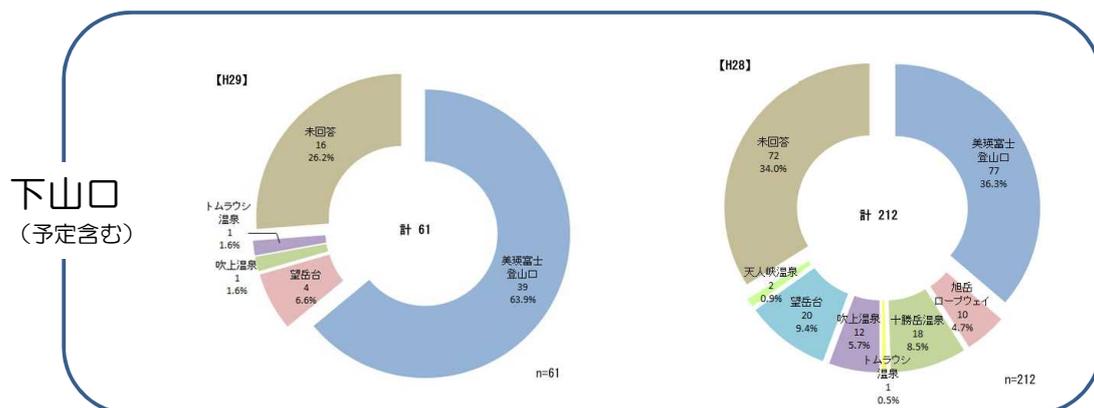
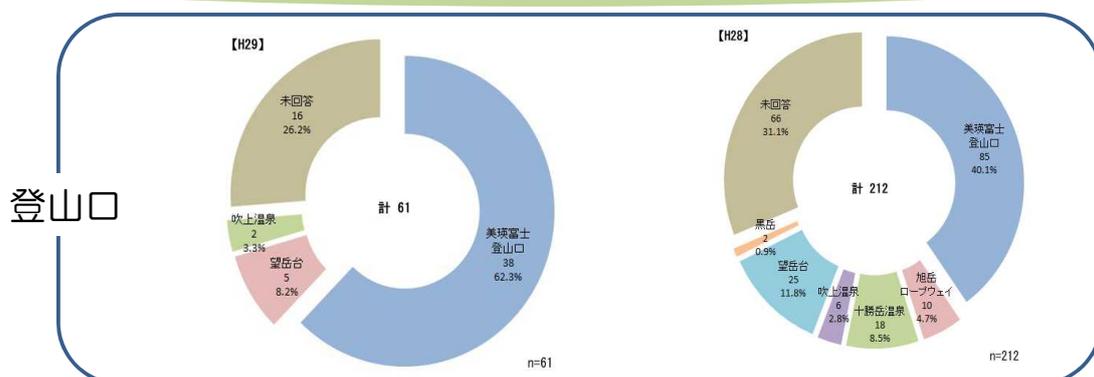
登山コース/宿泊か日帰りか



平成29年度結果

- 「オプタテシケ山往復」が55.6%、次いで美瑛富士往復は27.0%、平成28年度に比べて縦走者は少ない（アンケート時期によるものと思われる。）。

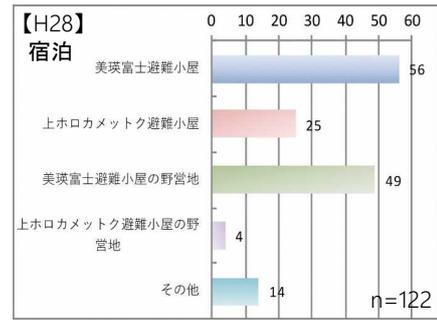
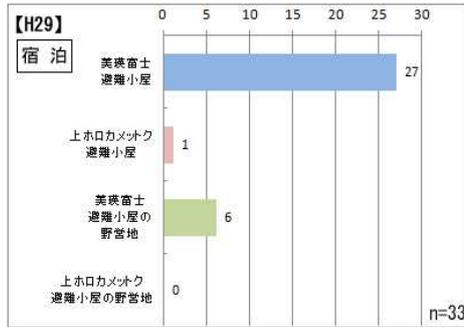
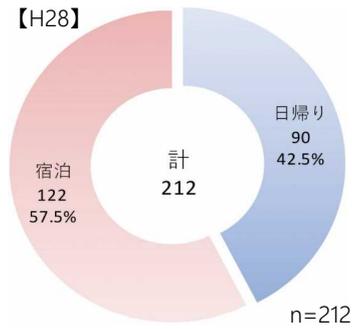
登山コース/宿泊か日帰りか



平成29年度結果

- 美瑛富士登山口の利用が最も多く、60%以上を占める。

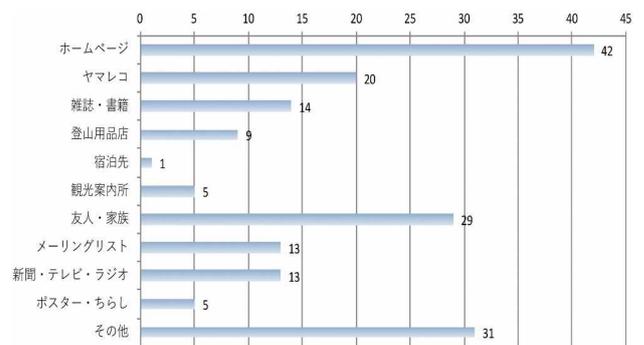
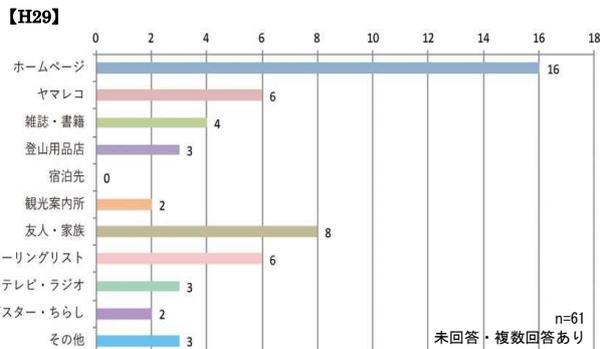
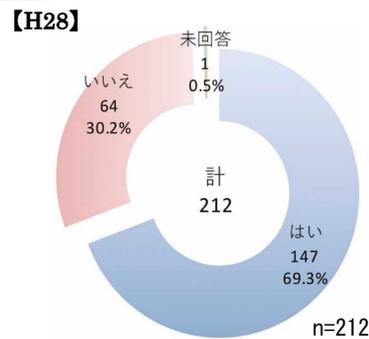
登山コース/宿泊か日帰りか



平成29年度結果

- 「宿泊」が54.1%。そのほとんどが美瑛富士避難小屋か野営地で宿泊。

携帯トイレ普及取組認知度

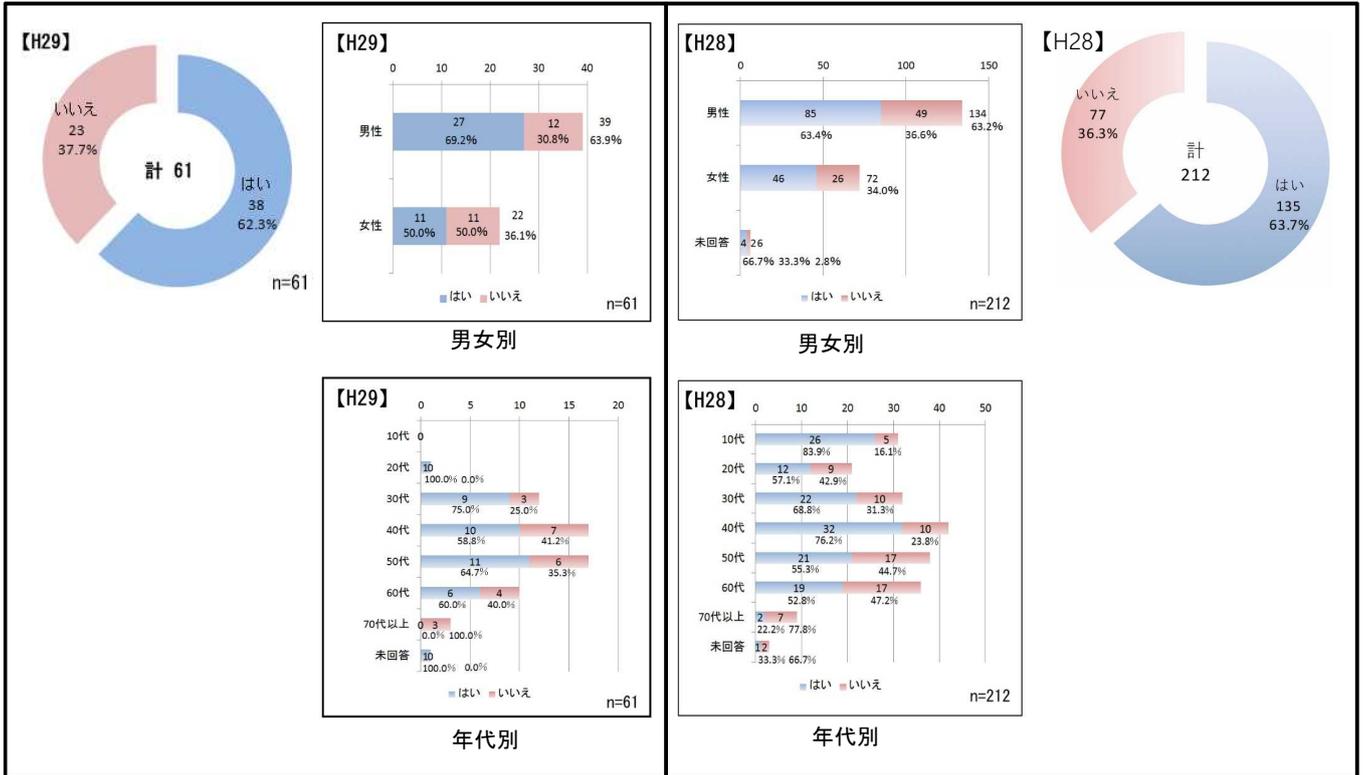


平成29年度結果

- 回答者の65.6%が知っていた。
- 出発前にホームページ、ヤマレコ、メーリングリスト等の電子媒体から情報を入手している者が多い。雑誌、書籍、登山用品店、友人・家族も一定程度いる。

(複数回答あり)

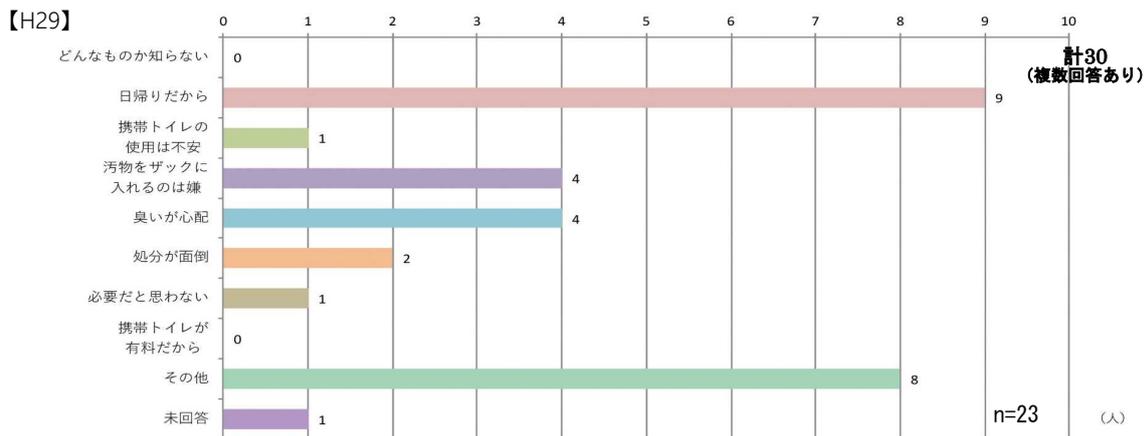
携帯トイレの携行



平成29年度結果

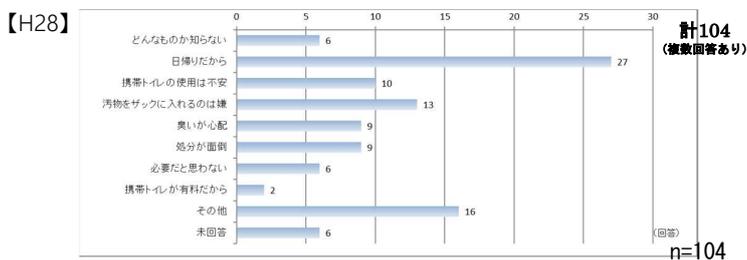
- 回答者の62.3%が携帯トイレを携行していた。

携帯トイレを携行しなかった理由



平成29年度結果

- 最も多いものは「日帰り」だからという回答。
- 「汚物をザックに入れるのは嫌」、「携帯トイレの使用は不安」、「臭いが心配」、「処分が面倒」など、回答数(30中11:約4割)が携帯トイレに対する不安についてであった。



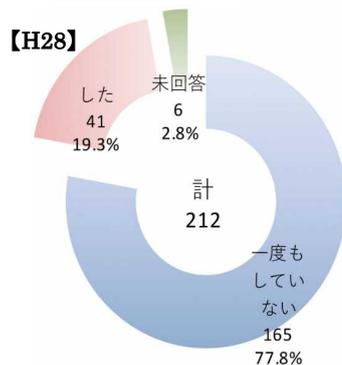
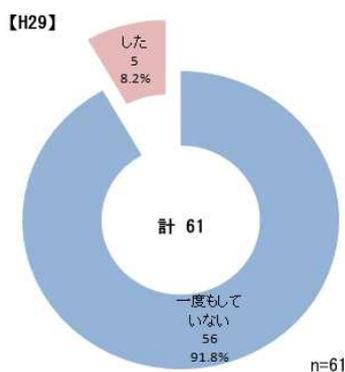
携帯トイレ携行と認知度の関係

	携帯トイレ使用の お願いを知っている	携帯トイレ使用の お願いを知らない	計
携帯トイレを 持ってきた	32	6	38
携帯トイレを 持って来なかった	8	15	23
計	40	21	

○携帯トイレを持ってこなかった23人のうち、携帯トイレ使用のお願いを知っている人は8人(34.8%)、知らない人は15人(65.2%)だった。

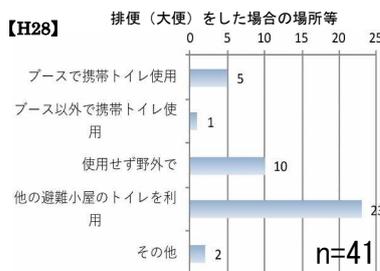
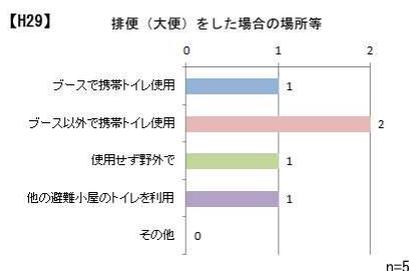
○アンケート調査に伴い口頭で聞き取りを行った際、「排泄のタイミングはある程度コントロールしている」という登山者が3人いた。うち1人は、「複数泊を伴う縦走登山等でなければ排便はしない。1泊2日では携帯トイレを持参しない」と言っていた。

登山中の排便（大）

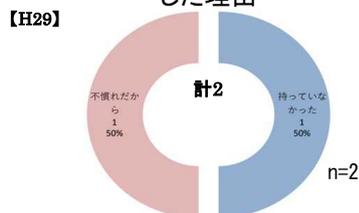


平成29年度結果

- 今回の登山中に排便した登山者は61人中わずか5人(8.1%)。
- なお、排便した人は全て宿泊した登山者だった。



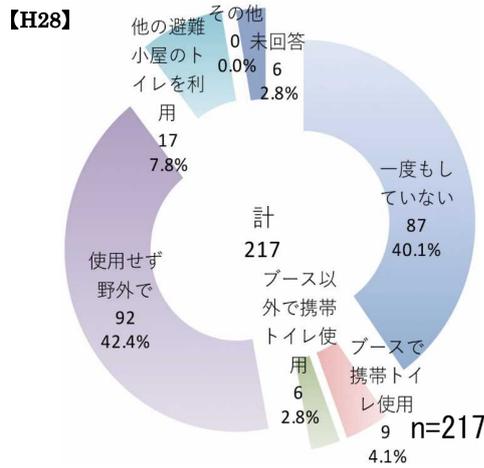
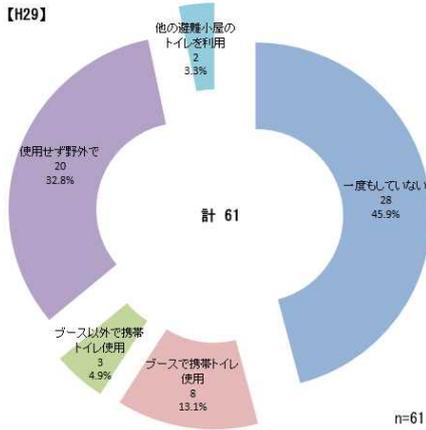
携帯トイレを使用せず野外で排便した理由



携帯トイレを使用せず野外で排便した理由



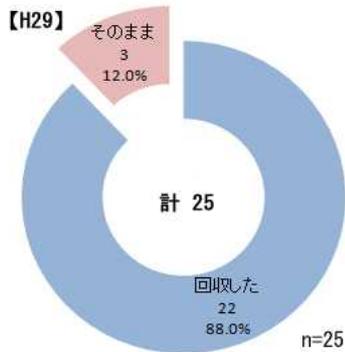
登山中の排尿（小）



平成29年度結果

- 20人（32.8%）が「携帯トイレを使用せず野外で用を済ませた」と回答した。
- 使用後のトイレ紙については、25人中22人（88.0%）が「回収した」と回答した。

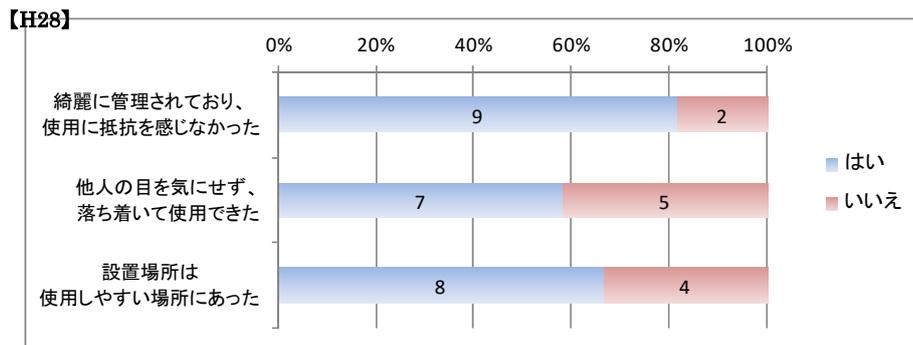
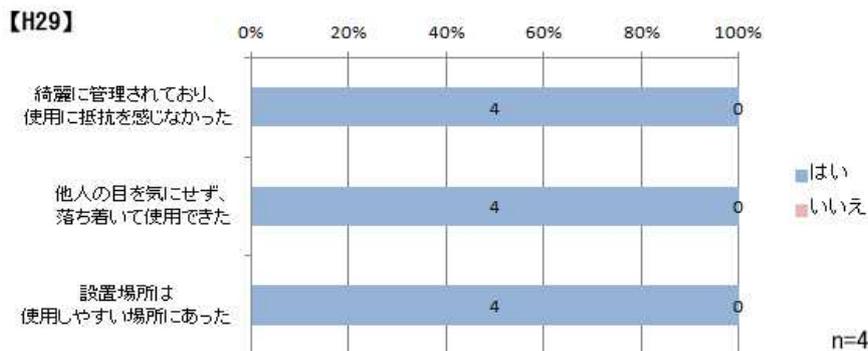
用を済ませた後のトイレ紙の処理



用を済ませた後のトイレ紙の処理



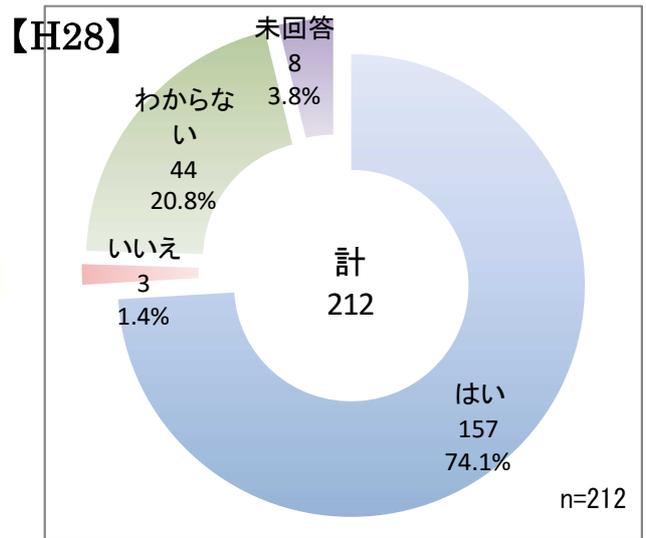
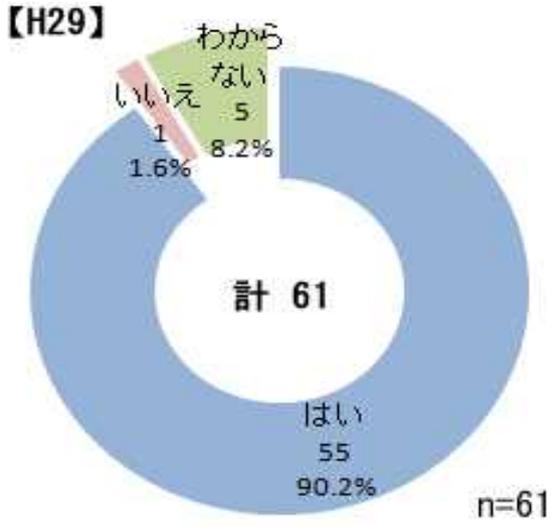
携帯トイレブース使用の感想



平成29年度結果

- 携帯トイレブース（テント）使用者の感想は好意的だった。

小屋型ブース利用の意向

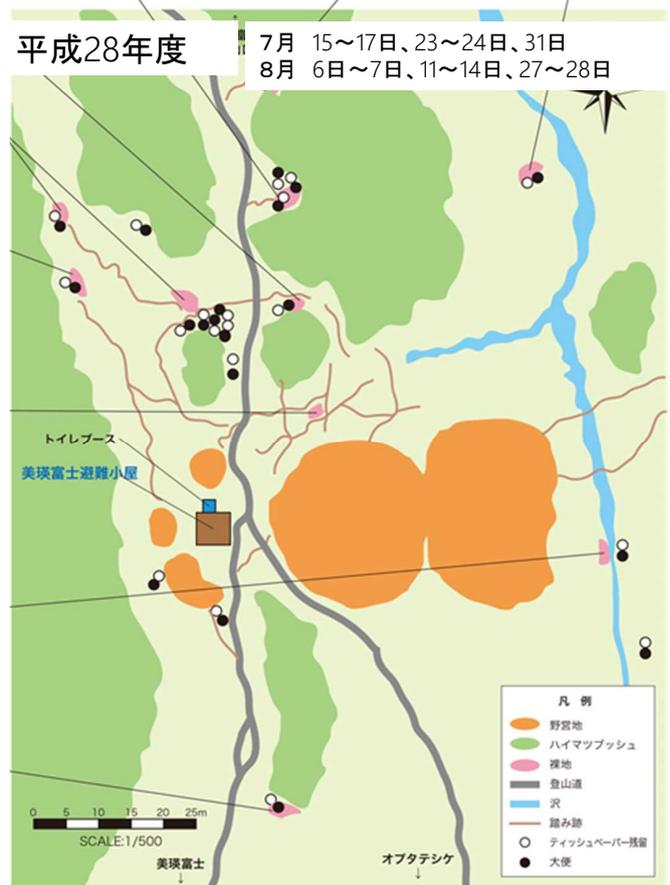
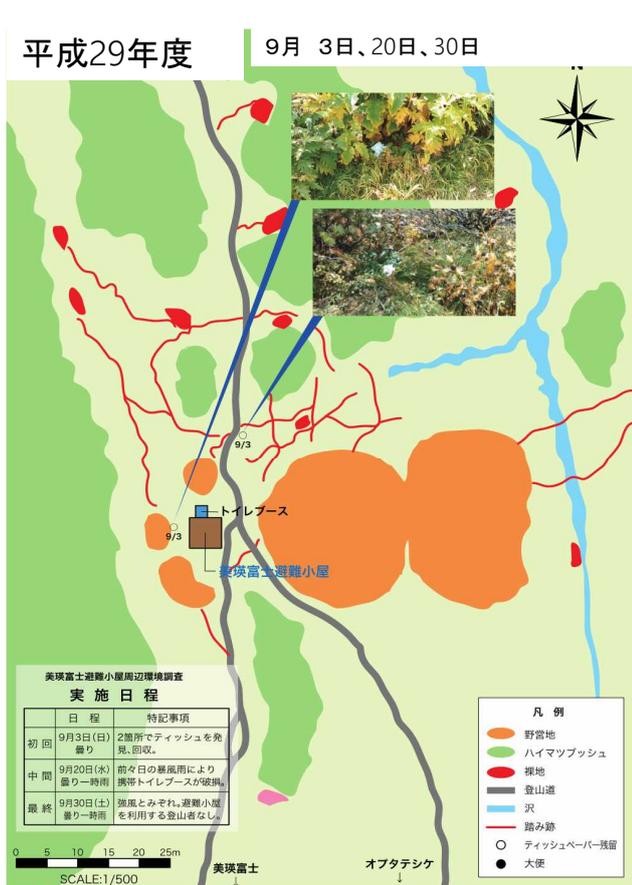


平成29年度結果

- 回答者の約9割が、小屋型ブースが設置されれば携帯トイレを使用する意向を示した。

1. 美瑛富士携帯トイレシステム試行に伴うアンケート調査結果

(3) 環境調査の結果



まとめ

試行開始平成27年度からの飛躍的向上、平成28～29年度の高止まり

①美瑛富士避難小屋における携帯トイレ普及の取組の認知度

平成27年度 58.1% (n=47、美瑛富士登山口で調査)

平成28年度 69.3% (n=212)

平成29年度 65.6% (n=61)

②携帯トイレの持参率

平成27年度は31.9% (n=47、美瑛富士登山口で調査)

平成28年度は63.7% (n=212)

平成29年度は62.2% (n=61)

※持参率については大きく向上。

※平成29年度調査において

上記①の取組を認知していた40人のうち、

- ・携帯トイレを持参していたのは32人(80.0%)、
- ・持参していなかった人は8人(20.0%)。

上記①の取組を認知していなかった21人のうち、

- ・携帯トイレを持参していたのは6人(28.6%)、
- ・持参していなかった人は15人(71.4%)

※取組を認知していた人のほうが持参率ははるかに高かった。

まとめ

試行開始平成27年度からの飛躍的向上、平成28～29年度の高止まり

③利用者の使用意思 (常設の携帯トイレブースが設置されたら、利用するか)

平成28年度は74.1% (n=212)

平成29年度は90.2% (n=61)

※上記①のように調査時期をずらしても、常設の携帯トイレブースが設置された場合に利用する意思のある者が多いことがわかる。

※平成27年度は57.4% (n=47、美瑛富士登山口で調査)であったため、利用者の使用意思も大きく向上しているといえる。

まとめ

- 常設の携帯トイレブースの設置の有効性については、上記の利用の確実性も踏まえると、平成27年から試行的にテント型の携帯トイレブース設置の取組を始めた後、平成29年の現時点で既に認められる。
 - 認知度は、美瑛富士避難小屋ではおおむね7割程度という状況であり、さらに認知度を引き上げる取組も必要である。
 - 平成29年度、携帯トイレの携行と認知度の関係調査では、61人中取組を認知せず携行しない人は15人（24.6%）だったが、この層に情報を到達させることが重要。
 - 認知した経緯が最も多いのはホームページである。美瑛富士や美瑛富士避難小屋でインターネット検索をすると、「ヤマレコ」や山のトイレを考える会の記事に接し、携帯トイレの情報が出てくる。
 - 一方で、大雪山で検索した場合は携帯トイレ情報に行きつかない可能性がある。そのため、大雪山全体で携帯トイレを普及する方針を打ち出し、それをホームページ等で積極的に発信していく等の取組が、向上した認知度をさらに上げるために必要であると考えられる。
-